

物理部会

部会長 並木 雅俊

物理部会は、4年に一度のオリンピック開催年に、同窓生と退職された教職員を含む全教職員に呼びかけをして、総会・懇親会を開催しています。部会活動の大きな流れはこの周期に合わせて組み立てられており、平成26年は丁度その中間の年として、次の準備に向けた第一歩の踏み出す比較的变化のゆるやかな年でありました。とは言え、部会活動の中心となる役員の若返り、理工学部南棟建設に伴う物理学科の移転準備など、部会内外の変化が確実に始まった年でした。

まず、平成26年6月の理工学部校友会の総会で、物理部会から中森秀樹氏(24回)が理工学部校友会副会長に、また大熊康典氏(30回)が常任幹事に選出されました。中森氏は、物理部会顧問の服部保氏(10回)と共に校友会事業委員会委員として理工学部未来博士工房の支援活動等に務めており、学内外の校友会委員も新旧が連携を取りながらの若返りが始まっています。



一方、物理部会の拠点となる物理学科・量子科学研究所については、5号館・9号館にあった研究拠点と事務の一部が、7号館と法科大学院(旧)の建物に移転を開始いたします。学科主任も平成26年の10月から植松英穂先生(19回)と交替して高橋努先生の再任となり、また量子科学研究所主任も相澤正満先生から交替して

高杉恵一先生が勤められることになりました。同じく10月から高野良紀先生も理工学部研究所所長に就任されており、これらの先生方が協力して、理工学部の発展に尽力されることと思います。植松先生、相澤先生には、これまでの大任ご苦様でした。

さて、物理部会では例年の業務として(プラंक定数をデザインした)入学記念品の配布や講演会の開催、物理同窓会賞等の授与等の形で学科行事への支援を行っています。平成26年の7月には、物理部会主催の下で物理学科インセンティブ授業の一環として、柵瀬高志氏(42回:富士フィルム株)と菅沼亮佑氏(48回:田中貴金属工業株)による「卒業生は今」をテーマとする講演会を開催し、同窓生の社会での活躍を伝えて在校生への励みとしました。また、物理学専攻と量子理工学専攻が共同で開催した大学院の新入生歓迎会においても、物理部会の構成部会である大学院物理同窓会と大学院量子理工同窓会から、心を込めた支援が行われました。これらの支援活動が在校生の帰属意識を高め、卒業後の活発な同窓会活動に繋がれば幸いです。

冒頭に述べたように、リオデジャネイロ・オリンピックの年は物理部会総会の年です。これから色々な企画を準備してゆきますが、同窓の皆様からのご提案も戴ければと思いますので、よろしく願い申し上げます。

(文責 仲滋文)